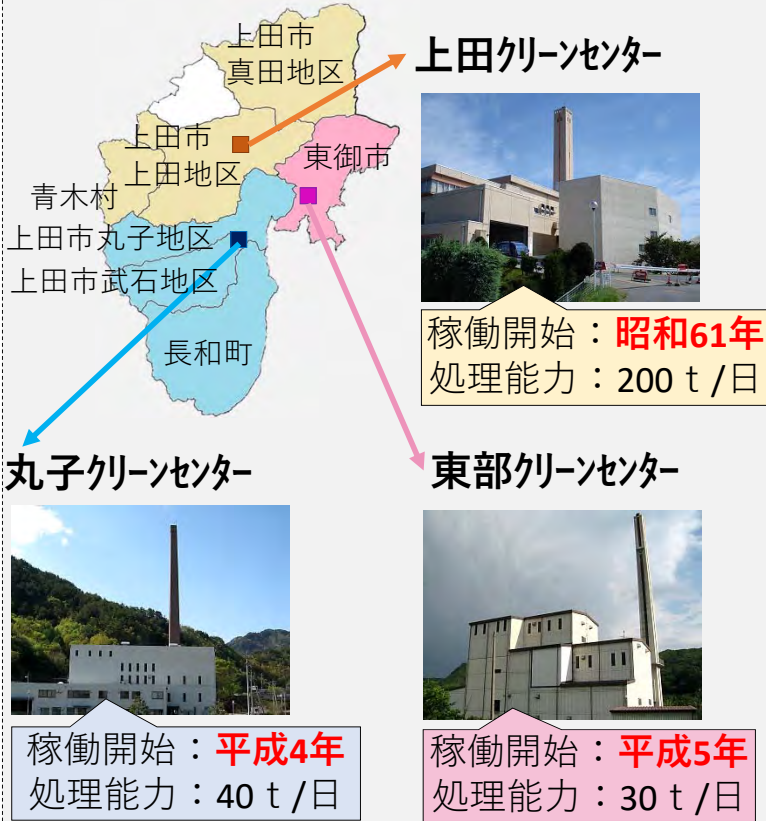


資源循環型施設の整備事業について

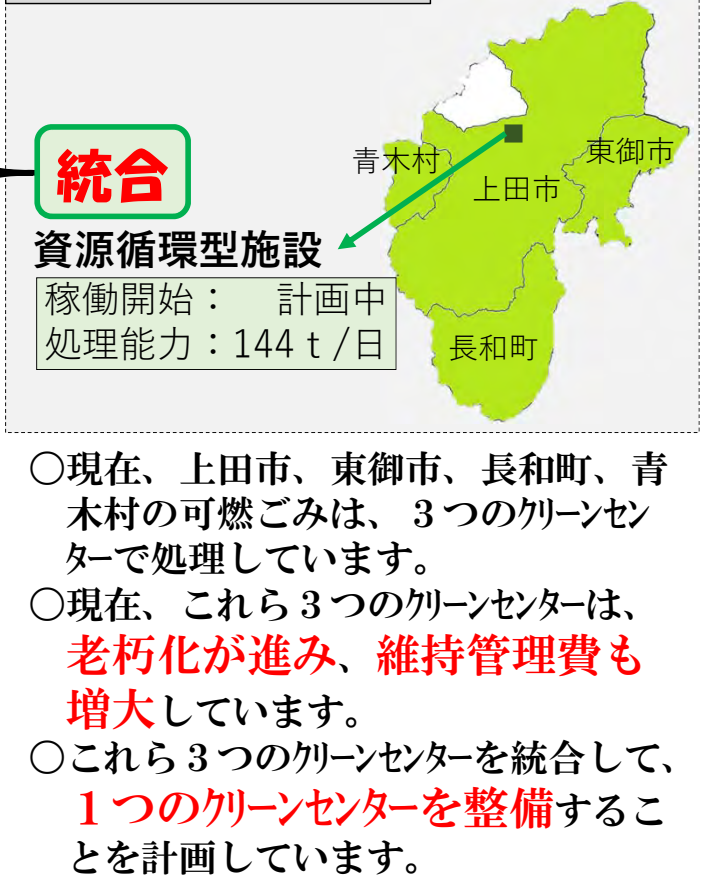
①事業の概要

資源循環型施設 = ごみ焼却施設 + エネルギー有効活用施設

現在のごみ処理状況



計画している内容



計画している場所

上田市常磐城2 3 2 0ほか(約2 ha)



- 清浄園(し尿処理施設)を解体して、建設することを計画しています。
- 清浄園の機能は、し尿前処理下水道投入施設(南部終末処理場)に移転する計画です。

計画施設の概要

項目	計画諸元
焼却対象物	・可燃ごみ、災害廃棄物(災害時のみ)
焼却処理能力	・144 t / 日 (72 t / 日 × 2炉)
処理方式	・ストーカ式焼却炉 (24時間連続運転)
煙突高さ	・59m
余熱(エネルギー)有効利用	・ごみの減量に可能な限り取り組むことを前提に、焼却によって生じる熱エネルギーを有効に活用します。 ・活用方法は、地域の皆様と協議しながら検討します。

資源循環型施設の整備事業について

②環境配慮事項

「安全・安心」を最優先に、周辺環境に配慮した施設を目指す

排ガス規制

○煙突からの排ガスは、法規制値より小さい値を自主基準値として設定し、周辺環境への影響をより低減します。

項目		単位	計画施設	法規制値	上田クリーンセンター
処理方式		-	ストーカ式		ストーカ式
処理能力		トン/日	144		200
煙突高さ		m	59		59
炉数		-	2		2
排出ガス 濃度 (規制基準)	ばいじん	g/Nm ³	0.01	0.08	0.02
	硫黄酸化物	ppm	30	(約4,000)	100
	窒素酸化物	ppm	50	250	150
	塩化水素	ppm	30	430	200
※酸素濃度 12%換算値	ダイオキシン類	ng- TEQ/Nm ³	0.1	1	1
	水銀	μg/Nm ³	30	30	50

その他の主な配慮事項

- 施設で生じるプラント排水は、施設内で再利用することで河川等へは放流しません。
- ごみ搬入車両の出入口にエアカーテン等を設置し、外部への臭気の漏洩を防ぎます。
- 著しく騒音が生じる設備機器は、吸音材を施工した部屋に設置する等の防音対策を行います。
- 建物は、周辺環境と調和のとれた親しみやすいデザインを検討します。

環境監視体制

施設モニタリング

- 法令に則り、施設から排出される有害物質を測定し、結果を公表します。
- 法令での定め以上に測定する項目、頻度については、地元の皆様と協議します。

周辺環境モニタリング

- 施設稼働前から周辺環境を測定し、施設稼働後の影響を監視します。
- 測定する項目、頻度、場所等については、地元の皆様と協議します。

施設稼働後も地元の皆様と一緒に、施設と周辺環境の監視を行ってまいります。

資源循環型施設の整備事業について

③水害対策

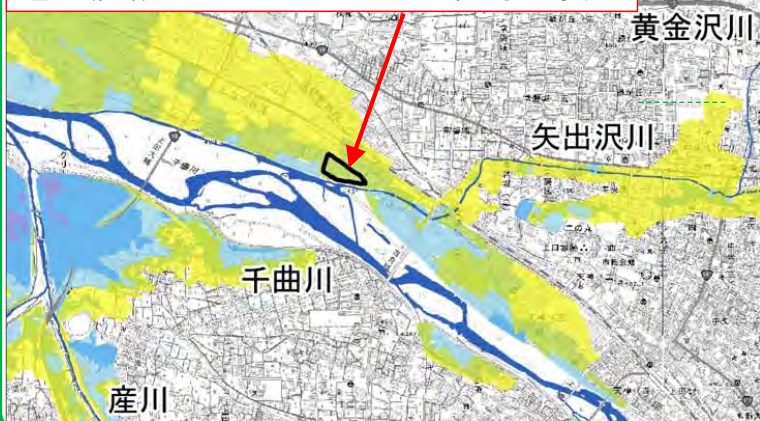
地域や施設の特徴を重視した水害対策を行う

防災・浸水対策

- 100年に1回程度の降雨に対しては、**ごみを処理する機能を守ります。**
- 1,000年に1回程度の降雨に対しては、**主要設備を守り、ごみを処理する機能を速やかに回復**できるように計画します。
- 具体的な対策は、**地域の皆様の意見を伺いながら今後検討してまいります。**

100年に1回の確率

建設候補地：0.5～1.0m未満の浸水



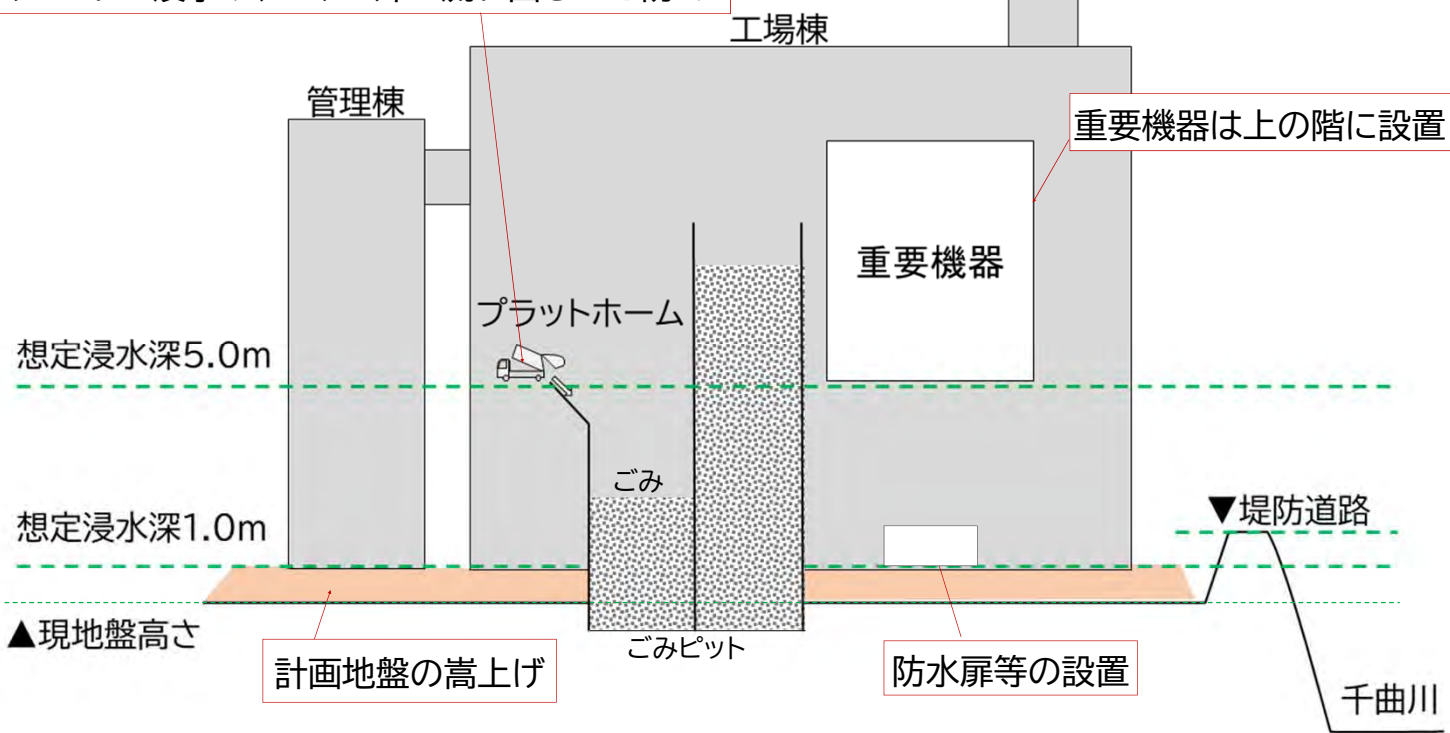
1,000年に1回の確率

建設候補地：5.0～10.0m未満の浸水



水害対策概念図

プラットフォームを上の方に設置し、
ごみピットの浸水や、ごみが外へ流れ出るのを防ぐ



長野県環境影響評価について

①一般的な内容

環境影響評価とは、環境に配慮した開発事業を行うための制度
(長野県環境影響評価条例)

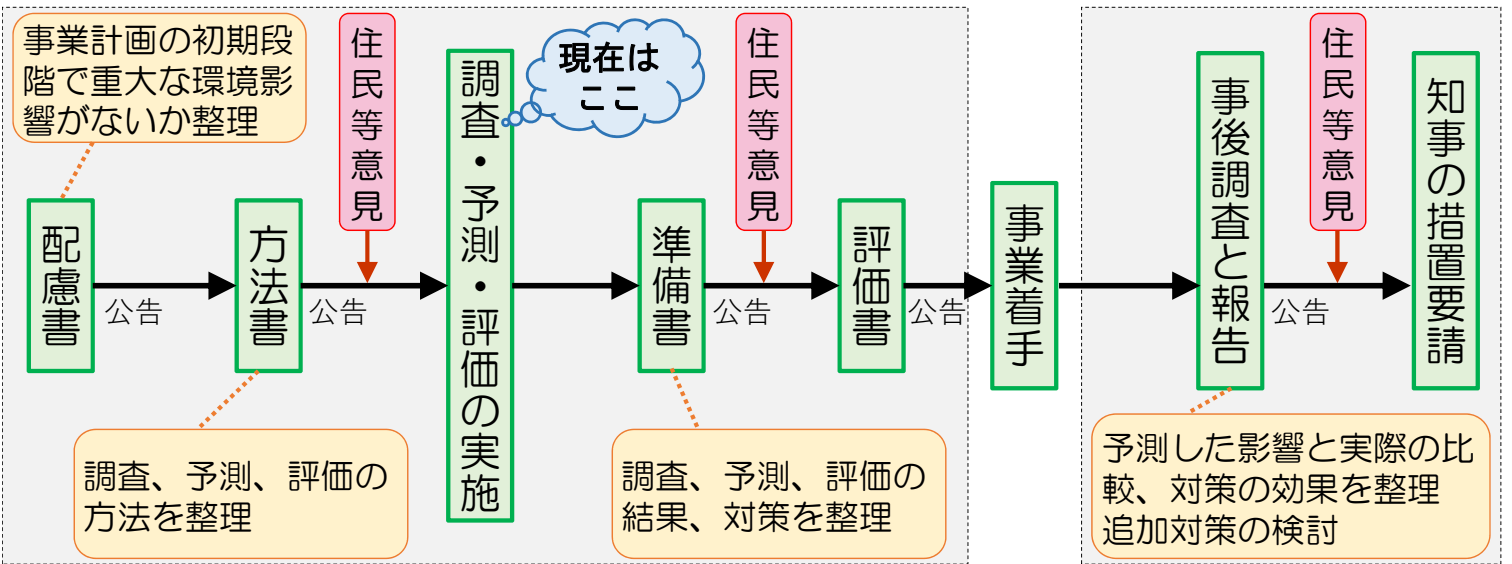
環境影響評価の一般的なイメージ



- ・ ①ある場所で（工場跡地、農耕地 等）、
- ・ ②工場建設等の開発をする場合に、
- ・ ③将来どのような影響があるのか？現在の環境から変化があるのか？を予測します。
- ・ ④将来予測される影響を無くす、または小さくするための対策を検討します。
 その対策を計画に取入れ、行うことで、
環境に配慮した開発を目指すものです。



長野県環境影響評価の一般的な流れ（簡略図）



長野県環境影響評価について

②項目選定の考え方

項目を選定する際のポイント

- ・長野県環境影響評価条例に則って環境要素を検討
- ・計画施設が将来稼働した際の影響を想定（影響要因）

下表の「影響要因: 焼却施設の稼働」における「環境要素: 大気質」が該当

検討例

- ・ごみを燃やすと周辺地域の大气汚染が懸念
⇒大気質への影響の程度を予測し、必要な対策を検討するため選定

選定した項目

環境要素	工事による影響								施設の稼働による影響					
	工事関係車両の走行	樹木の伐採	土地造成(切土・盛土)	掘削	既存施設(清浄園)の解体	舗装工事・コンクリート工事	建築物の工事	廃材・残土等の発生・処理	地形改変、嵩上げ	建築物・工作物等の存在	緑化	ごみ搬出入車両の走行	焼却施設の稼働	廃棄物の排出・処理
大気質	○		○	○	○	○	○					○	○	
騒音	○		○	○	○	○	○					○	○	
振動	○		○	○	○	○	○					○	○	
低周波音													○	
悪臭												○	○	
水質			○	○		○								
水象				○	○					○			○	
土壤汚染				○	○								○	○
地盤沈下				○	○					○			○	
地形・地質				○										
植物		○	○							○	○			
動物		○	○	○	○	○	○			○	○		○	
生態系		○	○	○	○	○	○			○	○		○	
景観									○	○	○			
触れ合い活動の場	○											○	○	
廃棄物、残土等		○	○	○	○	○	○	○						○
温室効果ガス等												○	○	
日照障害										○				
電波障害										○				

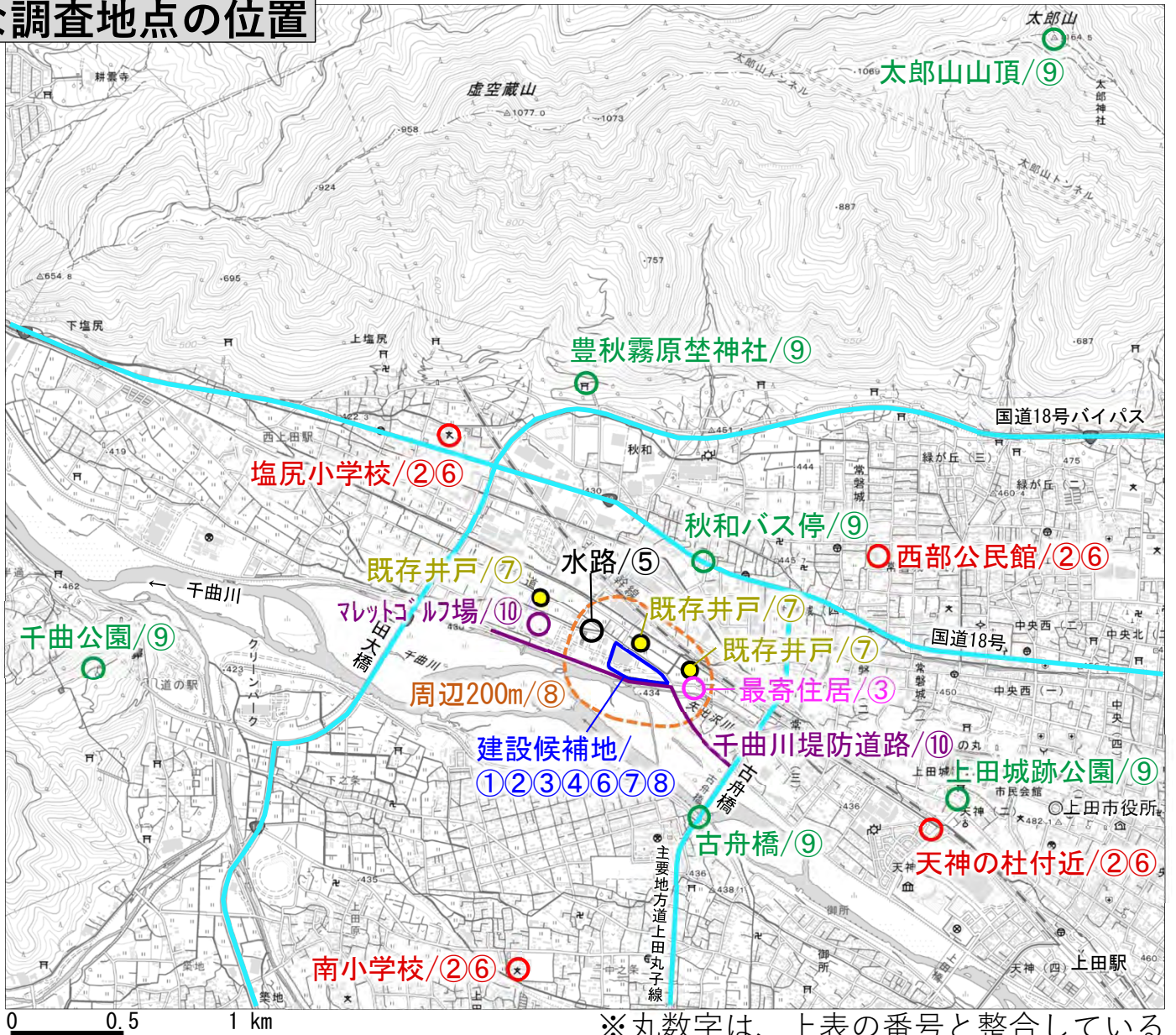
環境影響評価の調査地点について

調査地点の考え方（概要）

調査地点は、既存データや環境影響評価技術委員会の意見等を基に設定しています。

① 地上気象、 上層気象	・ 風向と風速は屋上で測定	⑥ 土壌汚染	・ 主要な風向や河川を考慮 ・ 建設候補地内
② 大気質、 悪臭	・ 地域の風向や河川を考慮 ・ 建設候補地内	⑦ 地下水位	・ 建設候補地内と ・ 周辺の上流側と下流側
③ 騒音、 振動	・ 建設候補地の敷地境界と 最寄の住宅地	⑧ 動物、 植物	・ 建設候補地と その周辺200mの範囲
④ 低周波音	・ 建設候補地の敷地境界	⑨ 景観	・ 主要な眺望地点や 日常的な視点場
⑤ 水質	・ 排水の可能性がある水路	⑩ 触れ合い 活動の場	・ 建設候補地近隣の 自然と触れ合える場所

主な調査地点の位置



現地調査の実施風景

環境影響評価では様々な調査を実施しています。
ここでは、主に動物調査の風景や道具について紹介します。

哺乳類: シャーマントラップ



夜行性のネズミ等を生捕りにできる箱型の捕獲罠です。昼に設置して翌朝に確認します。

哺乳類: 自動撮影カメラ



自動で撮影可能な赤外線センサーカメラです。カメラの前を動物が通ると撮影されます。

哺乳類: フィールドサイン



地面や石などの上にある糞や足跡などの形状などから動物を判別します。写真はニホンジカの足跡です。

鳥類: 望遠鏡



望遠鏡を使うと、100m離れた鳥が、約3mの距離で見ると同じくらいの大きさで観察できます。

昆虫類: ライトトラップ



ライトに集まる夜行性の昆虫類を採取します。昼に設置して翌朝に確認します。

昆虫類: ベイトトラップ



昆虫の餌を入れたコップを地面に埋めます。飛べない昆虫が餌に釣られてコップに落ちていきます。

魚類: 投網



水面に向かって、網を投げて魚を採る方法です。主にオイカワ等の遊泳する魚が採れます。

魚類: サテ網

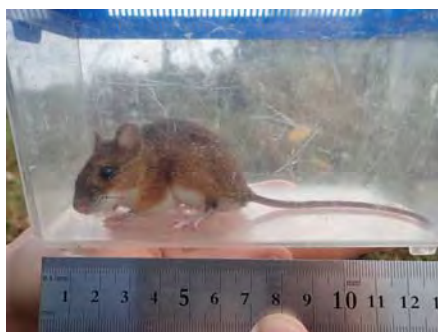


大きな網を川底に固定して、魚を追い込みます。主にドジョウ等の石の下や砂に潜っている魚が採れます。

その他、大気質や騒音等の調査風景や機材は、実物を屋外でご覧ください。

現地調査で確認された動物

清浄園の周辺で確認された動物を一部紹介します。



アカネズミ (トラップ捕獲)



キツネ (自動撮影カメラ)



ニホンシカカの糞



モズ



チョウゲンボウ



セグロセキレイ



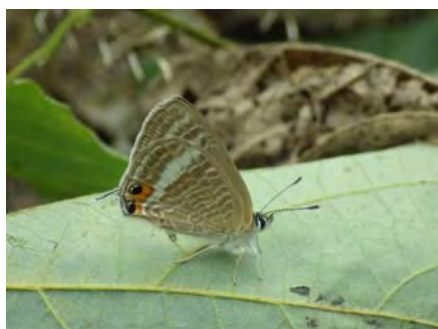
アマガエル



カジカガエル



カナヘビ



ウラナミシジミ



ドジョウ



オイカワ



ナマズ



サワガニ



コハクオナジマイマイ